

システム監査学会2013年度第27回研究大会
共通フレーム2013をベースとしたシステム管理基準検討研究プロジェクト

共通フレーム2013をベースとした システム管理基準検討研究プロジェクト の概要

2013年6月7日

城西国際大学
本田実

目次

1. 研究プロジェクトメンバ
2. 活動状況
3. 研究プロジェクトの背景
4. 研究プロジェクトの目的
5. 研究プロジェクトの検討範囲
6. 研究プロジェクトの作業項目
7. 基本方針
8. 今後の方向

1. 研究プロジェクトメンバ

氏名	所属	備考
朝倉 俊道	エムビーケーメタルソリューション株式会社	
大島 誠	みずほ情報総研株式会社	
高野 美久	NECソフト株式会社	
本田 実	城西国際大学	研究プロジェクト主査
和智 大二郎	グリー株式会社	

2. 活動状況

- 平成25年5月20日より2回開催
 時間は18時半から20時半
- 場所は城西国際大学紀尾井町キャンパス
- メンバは現状5名
- 活動は月1～2回開催予定

3. 研究プロジェクトの背景

- システム管理基準が作成されてから9年経っていて、必ずしも最近の情報システムの監査のための管理基準としては十分とは言えなくなっている。
- 平成16年作成のシステム管理基準を参考にした共通フレーム(「共通フレーム2007」)が平成25年3月に改訂された(「共通フレーム2013」)。
- 現在、システム監査のISO化が検討されているが、JIS化には若干時間がかかるものと思われる。

4. 研究プロジェクトの目的

- 「共通フレーム2013」をベースとしたシステム管理基準の改定版の作成



- システム監査学会のHPへの掲載
⇒システム監査学会のHPのアクセス回数の増加
- システム監査技術者試験シラバスの見直し提案
⇒システム監査技術者育成に寄与
- システム管理基準改定案の提案
⇒システム監査業務のより実践的な判断基準に寄与

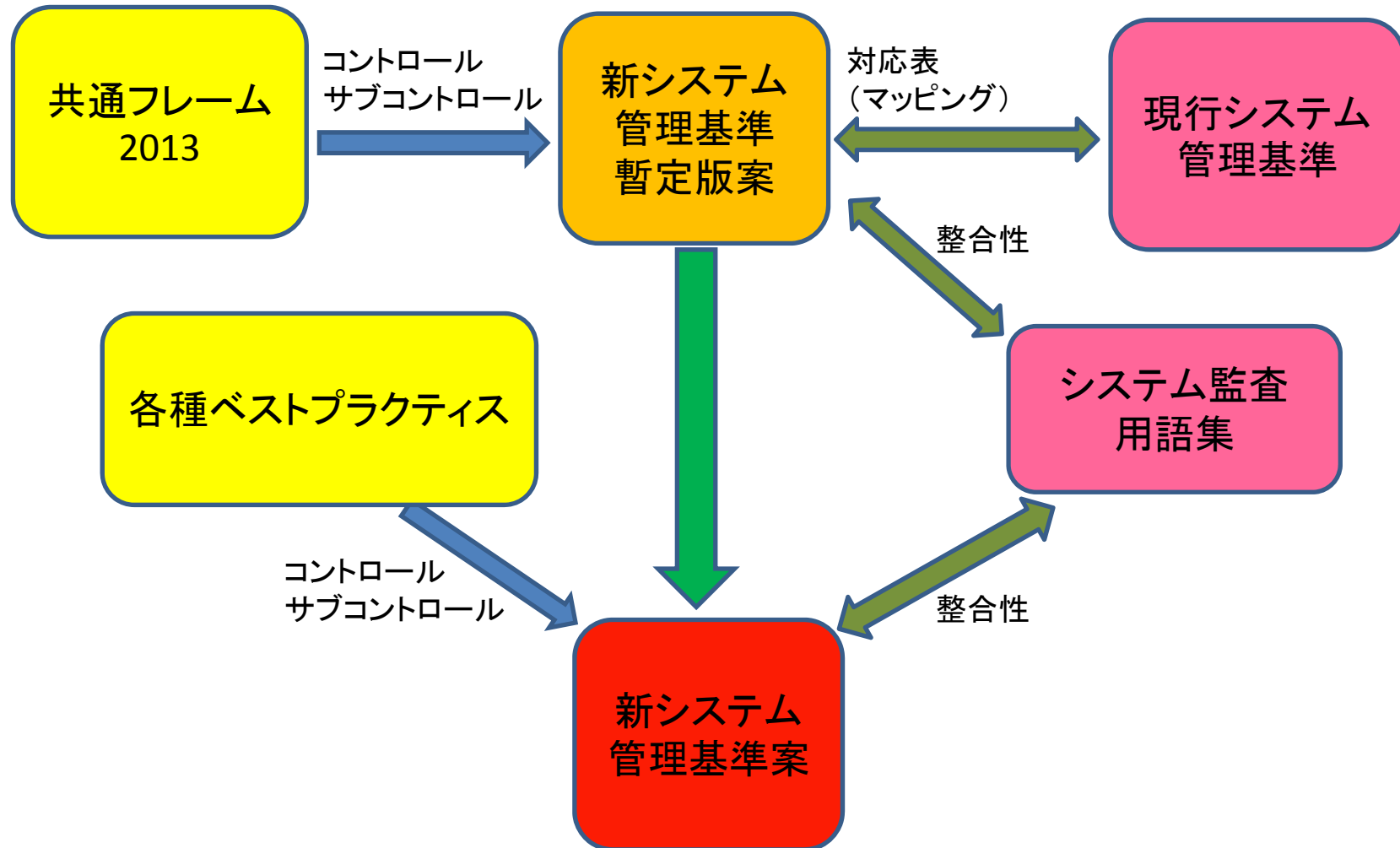
5. 研究プロジェクトの検討範囲

- 「システム管理基準(平成16年10月)」
- 「システム管理基準 追補版(平成19年3月)」
- 「情報セキュリティ管理基準
- 「共通フレーム2013(平成25年3月)」
- プロジェクトマネジメント
- サービスマネジメント
- 情報処理技術者試験シラバス
- システム監査学会「システム監査用語集(平成23年度)」

6. 研究プロジェクトの作業項目(1)

- システム管理基準の問題点の洗い出し
- 共通フレーム2013の理解
- 共通フレーム2013のアクティビティレベルおよびタスクレベルの作業をシステム管理基準としてのコントロール(監査項目)およびサブコントロール(着眼点)に変換することの検討
- システム管理基準との対応表を作成し、網羅性の検討
- 共通フレーム2013では足りない部分を補足するベストプラクティスの検討 等

6. 研究プロジェクトの作業項目(2)

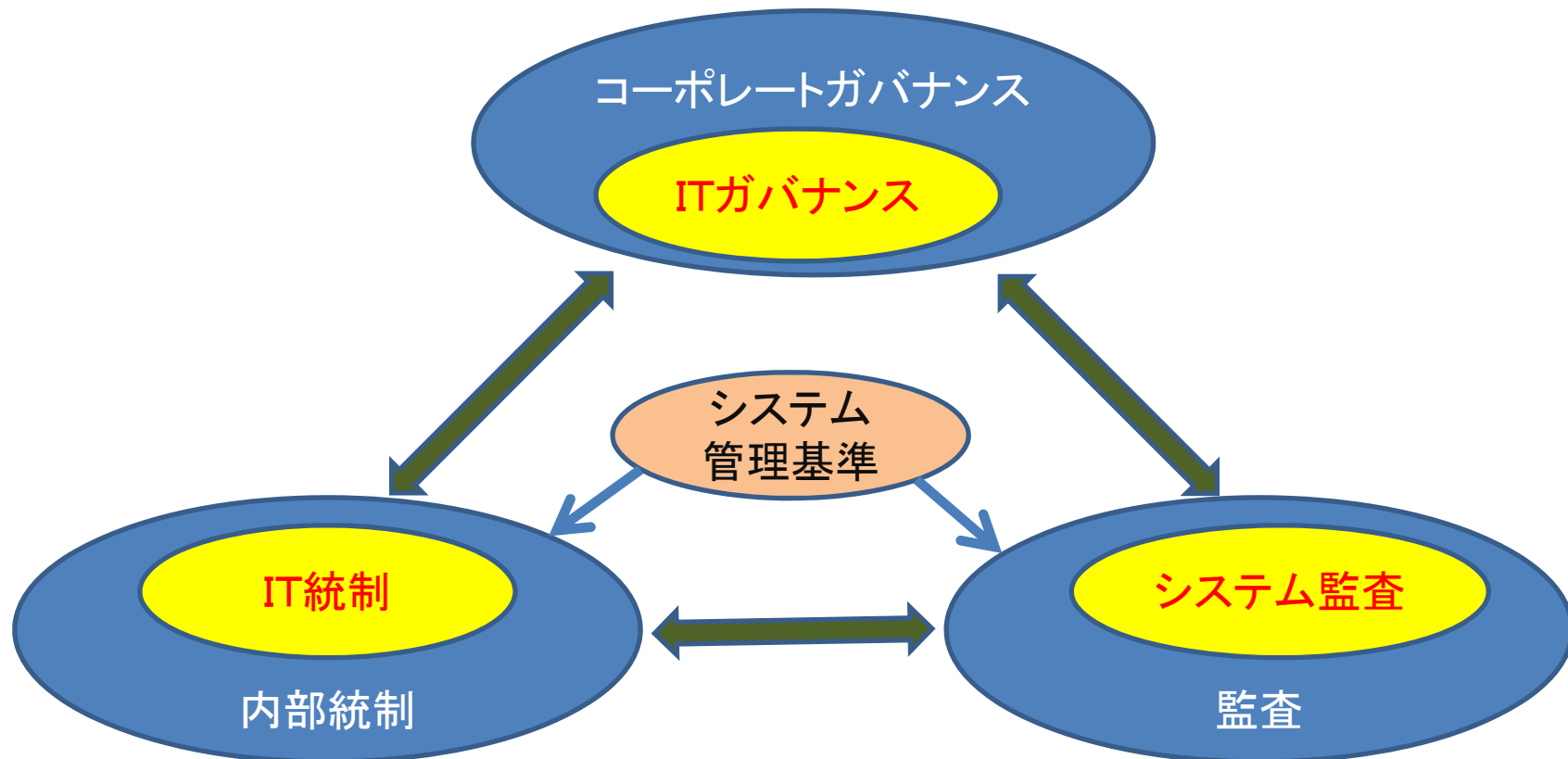


7. 基本方針(1)

- 共通フレーム2013との整合性を図る。
- システム監査技術者試験シラバスとの整合性を図る。
- システム監査用語集(平成23年度版)の用語を前提とするが、必要があれば、用語集の追加、改訂も考慮する。
- 共通フレーム2013のshall、shoud、mayをコントロール、サブコントロールとしてどのように扱うかの検討も行う。
- システム監査基準、システム管理基準追補版、情報セキュリティ管理基準等の関係は基本的には、現行通りとする。

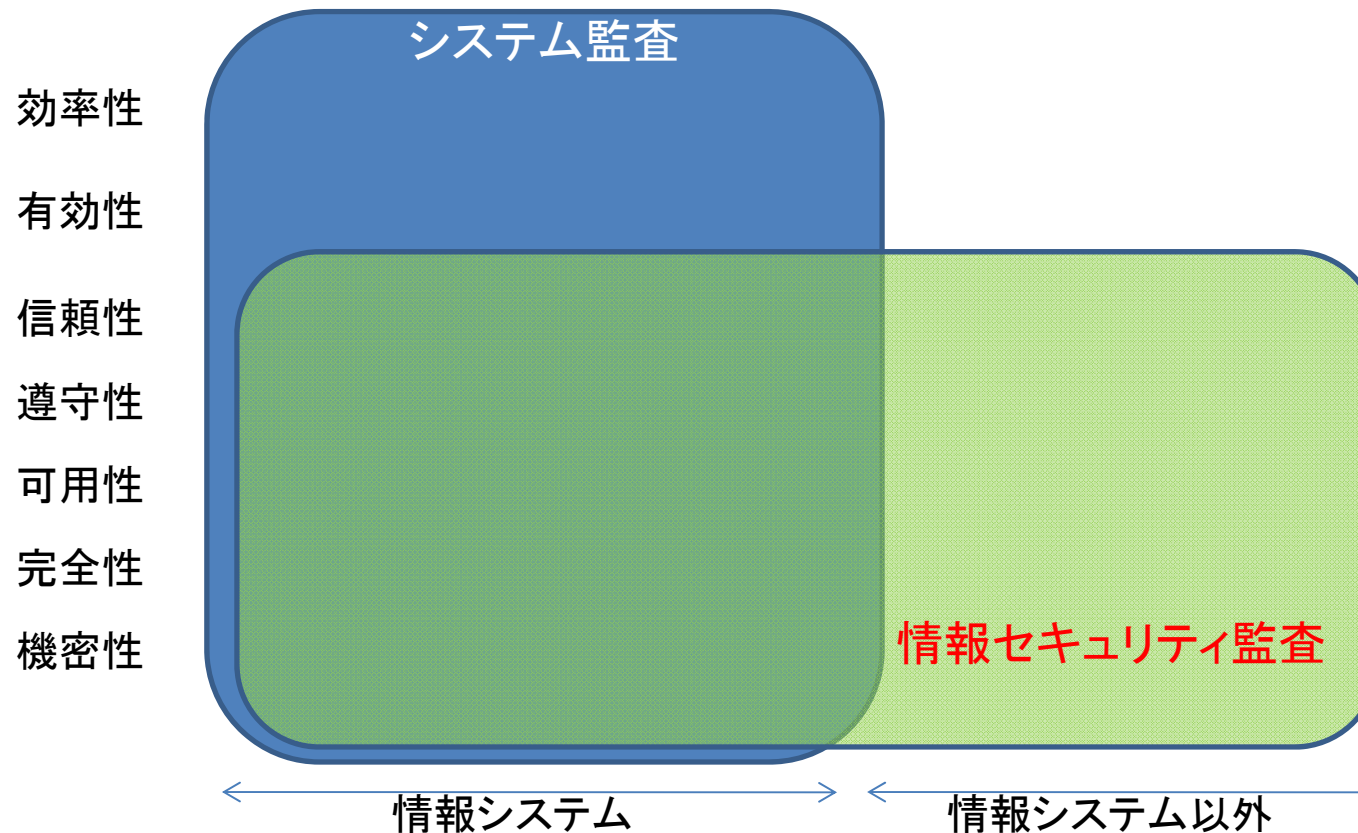
7. 基本方針(2)

- 新システム管理基準は、IT統制、システム監査に活用する。



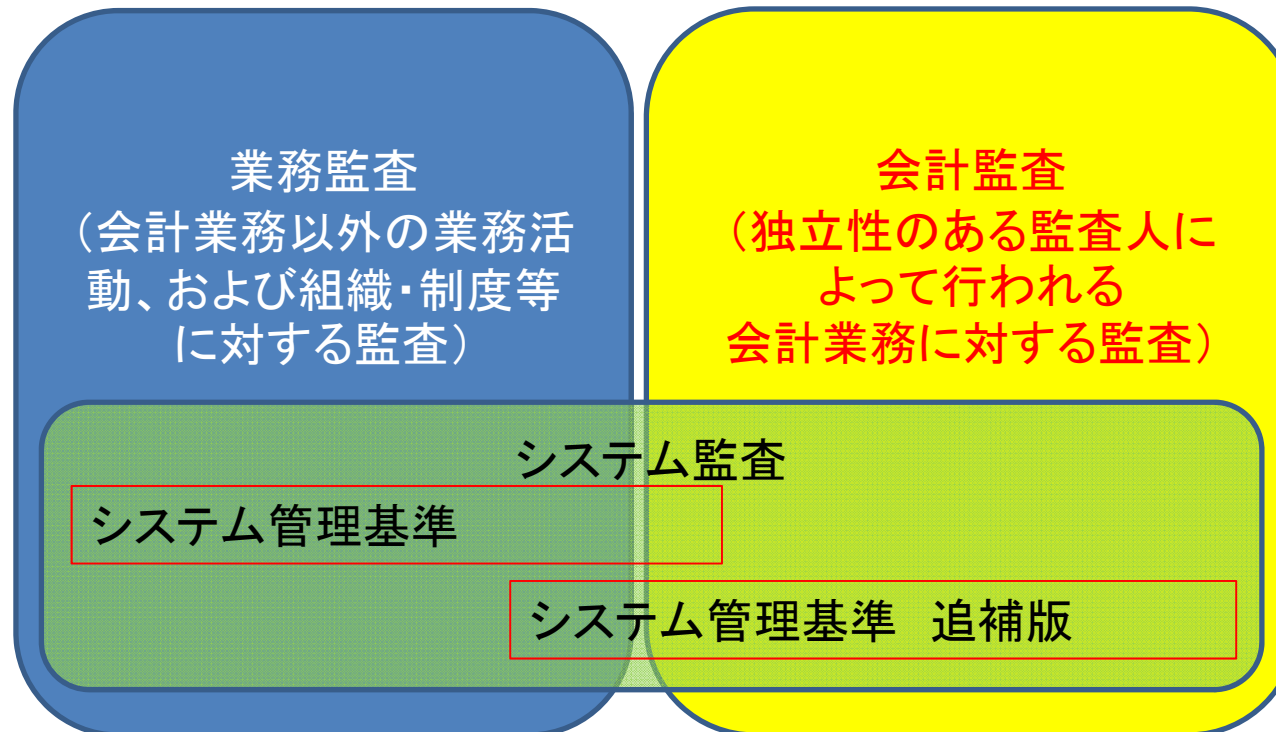
7. 基本方針(3)

- システム監査と情報セキュリティ監査の関係は、現行通りとする(「情報セキュリティ監査研究会報告書(2003年3月26日、経済産業省)」p24参照)。



7. 基本方針(4)

- 業務監査、会計監査とシステム監査の関係は以下の通り。



8. 今後の方向

- 本研究プロジェクトは、平成25年度、26年度を活動予定。
- 平成25年度は、新システム管理基準暫定版の作成予定。
- プロジェクトの成果物として、システム監査学会のHP等に掲載予定。
- システム監査学会のシステム監査コンテンツ委員会で審議し、システム監査学会としてHP等に掲載予定。

最後に

- ご清聴ありがとうございました。
- 本研究プロジェクトは、実質始まったばかりの状況ですので、ご関心のある方は是非参加して頂ければと思います。